

# 嚶鳴フォーラムin大野

大野町教育委員会(学校教育課 生涯学習課)

## 1 開催に当たって

「嚶鳴フォーラム」は、ふるさとの先人を通して、まちづくり、人づくりを目指す自治体が一堂に会して、それぞれの歴史上の人物を通じて、普遍的な人間の英知を再発見し、その英知を共有することによって、よりよい地域づくりへの道を共に学び、探り合い、それぞれの地域での取組と、フォーラムでの成果を全国に情報発信することで今後のまちづくり、人づくりなどを実現していく事業です。

「嚶鳴」とは中国最古の詩集『詩経』に出てくる言葉で、鳥が仲間を求めて鳴き交わすという意味、転じて、仲間が集まり切磋琢磨しながら、共に学び成長し合う姿を表します。

嚶鳴協議会には、14自治体が参加しています。事務局は東海市教育委員会に置かれています。大野町は平成22年度から参加し、翌23年度から正式に加盟しました。

大野町は、「嚶鳴フォーラム」に参加して以来、加盟市町による、

- ①先人の「教え、生き様」を指標とする取組
- ②先人を主要な地域資源として活かす取組
- ③地域を「先人」を通して見つめ直す取組

など、様々なまちづくりを学んできました。そして、地域にしっかりと根を下ろした顕彰活動に基づく人づくり、郷土の歴史や先人を通して醸し出される特色ある地域の姿に触れることができました。

大野町の先人「所郁太郎」は、倒幕維新に貢献した志士です。戦前には地域の人々の熱意で頌徳記念碑が建立され盛大な顕彰祭が催されていましたが、その後は人も事跡もほとんど忘れられていました。大野町は、歴史資源に恵まれていますが、郷土が輩出した先人とその事跡も含め、町内外ともにあまり知られてはいません。町の歴史は、町のアイデンティティを確立し、町民のふるさとに対する愛着、誇りを涵養するために不可欠なものとして認識しています。

そのため町では、郁太郎の顕彰活動復活の動きと前後して嚶鳴協議会に参加し、そこでの「学び」を通じて、ふるさとの先人をはじめ、文化財や歴史資源を調査・再評価・視覚化といった種を蒔き、同時に地域と共にその活動に取り組んできました。

道半ばではありますが、今年度担当市町として大野町の取組を事例として提供し、嚶鳴協議会においてその成果と課題を検証することにより、嚶鳴協議会及び加盟市町の目指すまちづくり、人づくりに寄与すると同時に、本町が目指す『地域社会の発展に貢献し、世界に羽ばたくことのできる「地域社会人」育成』に寄与したいと考えています。



【野古墳群視察の様子】

## 2 内容・日程について

### 【11月15日（金）】

I 開会行事（13:00 大野町総合町民センター）

II 視察研修（13:20～）

\* 開催市町についての理解を深めるため、特徴的な場を視察。

① 所郁太郎贈従四位頌徳記念碑（現地説明；所郁太郎顕彰会）

② 史跡野古墳群（現地説明；野村文化財保存会）

③ 国登録有形文化財旧北岡田家住宅（現地説明；大野町文化財保護協会）

④ 道の駅パレットピアおおの

III ふるさと先人交流会（18:30 大垣フォーラムホテル）

\* 加盟市町関係者、市民の懇親、交流の場。

### 【11月16日（土）】

IV 市町長・教育長合同会議（9:00 大野町総合町民センター）

・基調報告（大野町長 ほか）

・意見交換

V 嚶鳴フォーラム in 大野（公開行事 10:20～ 大野町総合町民センター）

・講演1（童門冬二氏）

→童門氏体調不良のため、吉田公平氏の講演に変更

・講演2（所 功氏）

・フィナーレイベント

① 嚶鳴協議会宣言

② 引き継ぎ（大野町から多久市へ）

③ コメント（吉田公平氏）

## 3 事業を終えて

11月16日、フォーラム当日には、大野町総合町民センターのホールに約600名の町内外の方々が集まり、大盛況でした。童門冬二氏の体調不良により、急遽吉田公平氏が講演を代行してくださいました。吉田氏は「地域に根差す先人とは、決して著名な人物だけではない。むしろ、この地に根差し、生きてきた名もなき先人こそ、その努力、生き様から学ぶ点が多い。」と教えていただきました。



また、参加された他市町の方は、地元の人たちがとらえている以上に、大野町の文化遺産について、その価値を見出されていました。その様子を見て、改めて地域の良さを認識するとともに、さらに丁寧に掘り起こして、この資源を後世に確実に残し、この地に誇りをもって生きていきたいと意を強くしました。

ご参集の他市町の方々、会の運営に携わってくださった方々、地域の方々から感謝いたします。

【大野町長のあいさつ】